

住民登録  
2月1日現在

人口 76,487 (-129)  
(男 36,661)  
(女 39,826)  
世帯数 20,084 (-20)

# 広報 おおだて

3月号 (No. 188)

編集と発行 — 大館市役所  
(電話) 2-1212  
発行年月日 — 昭和48年3月1日  
発行日 — 毎月1日

広報紙は、行政協力員を通じて全世帯に配布しています。届かなかったり、配布が遅いときは、総務課庶務係へご連絡ください。

昭和43年3月1日第3種郵便物認可(1部5円)



私たちが生れ、育ち、そして住んでいるこの大館にも、祖先が残した貴重な文化財がたくさんあります。今号からこの文化財を紹介しながら文化財に対する市民の理解と保護の面で協力を得たいと思います。

## <保存に市で助成>

大館市内には、国や県から指定を受けている文化財は14点におよび市でもこの貴重な文化財の保護には十分配慮しています。

314年の歴史を持つこの八幡神社に対しては、47年7月に500万円で完成した鞆堂(堂を永久に保存するため、堂の外におおいをかけた堂)や火災報知の設置、屋根の修理などに市から100万円を補助し、神殿の保護に側面から援護しています。

## 八幡神社神殿

秋田県指定重要文化財  
(昭和43年3月19日指定)

八幡神社の本建築は、万治元年(西暦1658年)に建てられた大館城中の鎮守であります。

本殿には二堂の神殿が収められており写真の手前の堂を大八幡(本宮)、後方の堂を小八幡(若宮)と呼び、この2つの神殿が重要文化財の指定を受けているものです。

真屋の中心から中心を計ると大八幡が2,03m×1,75m、小八幡は1,75m×1,50mで、小八幡の方がやや小さくなっています。両殿ともに向拝(社殿の正面階段の上に張り出したひさしの部分)の貫の中央に七曜文、その左右に牡丹唐草文がうすく彫られ、木鼻(こぶしおばな)は唐様で、本宮は牡丹、若宮は簡素な若葉が刻みこまれています。両殿とも外まわりの色彩が美しく、とくに本宮の長押には金ぼく押しのあとも残っており、建築当時の華麗な思案をとどめています。

また、同社所蔵の20枚におよぶ棟札は、この建築に関するものが大部分で貴重な資料として保存されています。

所在地・市内字八幡1番地  
管理者・福原了介氏



## <恐ろしい脳卒中>

## 半数が血圧に異状

市は成人病対策の一環として、昨年2月12日から3月7日まで行なった各地区の市民税の申告相談に出向いて、申告者を対象に血圧測定を実施しましたが、このほど、その結果がまとまりました。

検査の結果は、血圧測定を受けた方は9地区で2,134人で、測定の決算は

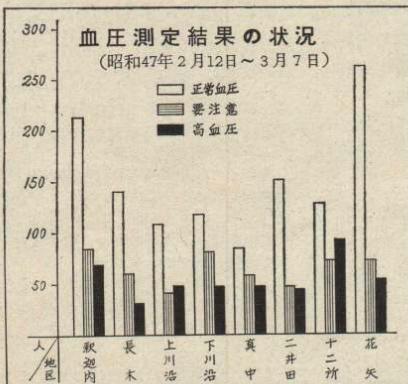
正常者が1,206人(56%)  
要注意が510人(24%)  
高血圧者が418人(20%)

となっています。

各地区別の測定状況は、下図のように高血圧者の割合が多いのは十二所地区的31.6%を筆頭に、真中地区(2.5%)、上川沿(2.4%)の順になっています。

結局、測定を受けたおよそ半数の方々が血圧に異状があることが明らかになつたわけで、高血圧からくる脳卒中の発作予防のために、この測定結果は大参考といえます。

高血圧を予防するには、まず、自分の血圧値を知ることです。正常者でも年2回、要注意者は3ヶ月に1回、高血圧者は医師の治療を受け、月1回は測定を受けるようにしたいものです。また、どんなに年1回は尿、心電図、眼底検査を受け、脳卒中の発作を事前に防ぐようにしたいものです。



## -交通災害共済-

### —加入申込を受付中—

市の公害課では、48年度の交通災害共済の加入者を受付しています。

この共済は、県内の7市60カ町村で設立しているもので、加入している方が不幸にして交通災害を受けた場合に、皆んなの掛金の中から共済金を支払いするという、県民一体となつた相互扶助制度です。

万一の交通事故や災害に備えて、職場ぐるみ、家族ぐるみで加入しましょう。

●掛金………1人300円

#### <市の特例>

◎小学校の新入生には、掛金の全額を市が負担します。

◎その他の小・中学生には、掛金300円のうち、50円を市が負担します。

#### ■加入申込の受付

申込書に掛金をそえて下記へ申込んで下さい。

公害課(別館1階)  
花矢支所、各出張所

## 執務時間変更の

### お知らせ

3月1日から、市役所の執務時間はつぎのようになります

記

▲月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時  
(昼休み、午後零時～午後1時)

▲土曜日 午前8時30分～午後零時30分